





業務名称 鳴門教育大学合併処理槽保全業務

特記仕様書

国立大学法人鳴門教育大学総務部施設課			
課長	課長補佐	係長	担当
			

令和6年2月

国立大学法人鳴門教育大学総務部施設課

特記仕様書

I. 業務概要

1. 業務名称 鳴門教育大学合併処理槽保全業務
2. 業務場所 鳴門市鳴門町高島字中島748番地(鳴門教育大学高島団地内)
3. 業務期間 令和6年4月1日から令和9年3月31日まで
4. 業務仕様
 - (1) 本特記仕様書に記載されていない事項は、国立大学法人鳴門教育大学契約事務取扱規則及び工事請負等契約要項、文教施設保全業務標準仕様書（令和5年版）（以下、「標準仕様書」という。）による。
 - (2) 業務仕様書（特記仕様書、標準仕様書）に定めがない事項は、施設管理担当者と協議する。
 - (3) 本特記仕様書の表記
 - ①・印で始まる事項については、○印を付した事項のみ適用する。
 - ②表中の各欄に数字、文字、記号等を記入する事項については、記入した事項のみ適用する。
 - ③＝又は×印で抹消した事項は全て適用しない。
 - ④特記された材料、製品名等は、特記されたもの又は同等以上のものを使用することとし、同等以上のものを使用する場合は、施設管理担当者の承諾を受ける。
 - ⑤各項目に付記した＜＞は標準仕様書、【 】は建築保全業務共通仕様書（令和5年版）における該当項目等を示す。
（例）＜I1.2.3＞ 標準仕様書第1編1.2.3に該当する項目。
 - (4) 施設管理担当者は総務部施設課設備係とする。
5. 対象業務
本業務の対象業務及び範囲等は以下の通りとする。
 - (1) 定期点検等及び保守業務
 - 浄化槽設備：対象設備及び場所は別紙1、2による。

II. 一般共通事項

1. 一般事項
 - (1) 請負代金の支払い
この業務の受注者は、発注者の指定した者が行う検査に合格したときは、請負代金の支払いを請求できる。請負代金の支払いは鳴門教育大学総務部財務課から12回に支払う。
 - (2) 受注者の負担の範囲 【I1.1.3】
業務の実施に必要な施設の光熱水費等の費用負担
・○なし ・あり（・電気 ・ガス ・水道 ）
 - (3) 守秘義務
本業務の実施過程で知り得た秘密を他に漏洩してはならない。また受注者は従事者に対し、従事者は就業期間中はもとより離職後も含め守秘義務を課せられることについて教育研修を行う。
 - (4) 著作権その他
著作権、特許権その他第三者の権利の対象となっている点検方法等の使用に関しては、その費用負担及び使用交渉の一切を受注者にて行う。

2. 業務関連図書

(1) 業務計画書等 【I1.2.1、I1.2.2】

次の書類を作成し、定められた期日までに施設管理担当者の承諾を得ること。

○業務計画書（作業着手前まで） ○緊急連絡表（作業着手前まで）

(2) 貸与資料 【I1.2.3】

業務に必要な次の関係資料を貸与する。なお、業務終了後速やかに返却する。

○合併処理槽の完成図書

3. 業務現場管理

(1) 業務責任者 【I1.3.2】

本業務の実施に先立ち、次の実務経験を有する業務責任者を選任し、氏名、生年月日、経歴書、業務に関する資格者証（写）及び受注者との雇用関係を証明する書類について書面をもって施設管理担当者に通知する。（業務責任者は業務担当者を兼任できる。）なお、業務責任者に変更があった場合も同様とする。

○浄化槽技術管理者

(2) 法定資格者の選任

本業務の実施に先立ち、業務実施上必要な次の法定資格者を選任し、氏名、生年月日、経歴書及び業務に関する資格を証明するものについて書面をもって施設管理担当者に通知する。なお、法定資格者に変更があった場合も同様とする

○浄化槽技術管理者

(3) 業務条件 【I1.3.3】

定期点検及び保守業務の実施時間帯は次の通りとする。実施日は施設管理担当者と協議する。

平日 8時30分～17時00分

4. 業務の実施

(1) 業務担当者 【I1.4.1】

本業務の実施に先立ち、次の実務経験を有する業務担当者を選任し、氏名、生年月日、経歴書、業務に関する資格者証（写）及び受注者との雇用関係を証明する書類について書面をもって施設管理担当者に通知する。なお、業務担当者に変更があった場合も同様とする。

[実務経験・業務資格]

○浄化槽管理士

(2) 業務に密接に関連する別契約の業務等 【I1.4.4】

下記業務の業務責任者と調整を図り円滑に業務を実施する。

○有（浄化槽法第9条の規定による清掃業務（別途業者）） ・なし

(3) 立会いを要する行事等 【I1.4.5】

(・有り ()) ☒ なし

(4) 業務の報告 【I1.4.7】

報告書等による報告期限は下記の通り。ただし、緊急性のあるものは適宜報告する。

・☒ 業務完了時 (1か月毎)

(5) 業務報告書の書式等

業務報告書及び部数は以下により必要に応じ写真等も添付する。

・☒ 点検及び保守結果報告書 (1部) ・☒ 水質測定記録 (1部)

・計測記録簿 (部) ・メンテナンス用台帳類 (部)

・施設管理担当者との打合せ記録 (部) ・作業日誌類 (部)

・☒ 事故、修繕、更新記録簿等 (1部) ・運転記録簿 (部)

書式は ・別添の業務報告書による ☒ 受注者の業務報告書による

ただし、 の報告書書式は関係法令で定められたものとする。

~~(6) 環境への配慮~~ 【I1.4.8】

業務報告書及び部数は以下により必要に応じ写真等も添付する。

・グリーン購入法の適用

国等による環境物品等の推進等に関する法律に基づく「環境物品等の調達に関する基本方針」における「22-6 庁舎管理等」に該当する品目を調達する場合は、同方針に規定する「判断の基準」を満たすものとする。

5. 業務に伴う廃棄物の処理等の実施

(i) 廃棄物等の処理 【I1.5.1】

① 引渡しを要するもの

1) 品名 2) 引渡し先 3) 集積場所

② 特別管理産業廃棄物

1) 品名 3) 集積場所

2) 引渡し先 4) 集積方法

③ 現場において再利用するもの

1) 品名 2) 使用場所

④ 再資源化するもの

1) 品名

⑤ 関係法令により適切に処理するもの

1) 品名 全ての発生材

6. 業務の検査 【I 1. 6. 1】

~~(1) プロセス検査~~

業務開始前、業務実施中、業務終了後の各段階において、以下に指定する項目について、自主検査等を行い、施設管理担当者の確認又は検査を受ける。各様式及び記載の手引きは、別紙 による。

① 業務開始前確認・検査

・施設状況確認

業務開始前に「設備様式 1」により、当該施設の状況を調査し、施設管理担当者の確認を得る。

・業務資料検査

業務開始前に「設備様式 2」により、各資料を確認し、施設管理担当者に提示する。ただし、作業計画書については、施設管理担当者との協議により、業務開始後 2 か月以内に検査する。

② 業務実施中検査

・自主検査

当該業務の履行期間中 1 回、施設管理担当者の指示する時期に、自主検査を行う。また、自主検査終了後 1 週間以内に施設管理担当者に提出する。

・聞き取り検査

施設管理担当者の指示により、検査を受ける。

③ 業務終了後確認

・業務終了後確認

当該業務の終了後直ちに、施設管理担当者の確認を得る。

7. 建物内施設等の利用

~~(1) 居室等の利用 【I 2. 1. 1】~~

~~(2) 共用施設の利用~~

(3) 駐車場の利用 【I 2. 1. 3】

当該業務を実施するために、駐車場を利用することができる。

なお、利用場所については施設管理担当者の指示による。

8. その他

~~(1) 点検の省略~~

~~(2) 作業用仮設物及び持込資機材等~~

(3) その他

① 契約図書及び関係図書を、業務履行のために使用する以外の目的で第三者に使用させてはならない。また、その内容を漏洩しない。ただし、これらの契約図書等が市販されている場合又は施設管理担当者の承諾を受けた場合はこの限りでない。

② 受注者は、業務履行に係る業務責任者及び業務担当者による業務の行為について一切の責任を負う。

③ 点検中に発見した不具合で、重大な災害を及ぼす恐れのあるものは速やかに施設管理担当者に報告すること。

④ 業務範囲内の合併処理槽に障害が発生し、施設管理担当者より合併処理槽の調査、点検等の依頼があった場合は、速やかに対応すること。修理費用については発注者負担とする。

Ⅲ. 特記事項

本業務の特記事項は以下による。

Ⅲ-1. 定期点検等及び保守業務

(1) 一般事項

① 保守の範囲

・その他の保守の範囲 (○なし)

② 支給材料

・記載以外の支給材料 (○なし)

③ 点検の省略

点検・保守が困難な部分等の対応については、事前に施設管理担当者と協議する。

(2) 機械設備 : 本業務の点検項目、点検内容は以下による。

項 目	特記事項
浄化槽	○浄化槽【Ⅱ4.8.2】 【Ⅱ4.8.3】 【Ⅱ4.8.4】
井戸	・井戸【Ⅱ4.9.1】

(3) 点検項目及び点検周期

浄化槽管理士 1 名 業務回数は週 1 回とする。

浄化槽技術管理者 1 名 業務回数は月 1 回とする。

(4) 法定検査

徳島県知事指定浄化槽検査機関において年 1 回行う。

(5) 水質検査

合併処理槽で採水のうえ、下記項目について水質検査を行う。

測定項目	規制基準	検査周期	検査回数
化学的酸素要求量 (COD)	通常 30mg/l 以下	週 1 回	156 回 (毎年度 52 回)
磷及びその化合物 (T-P)	通常 8mg/l 以下	週 1 回	156 回 (毎年度 52 回)
窒素及びその化合物 (T-N)	通常 60mg/l 以下	週 1 回	156 回 (毎年度 52 回)
水素イオン濃度 (PH)	5.8~8.6	月 1 回	36 回 (毎年度 12 回)
生物化学的酸素要求量 (BOD)	通常 20mg/l 以下	月 1 回	36 回 (毎年度 12 回)
浮遊物質 (SS)	通常 40mg/l 以下	月 1 回	36 回 (毎年度 12 回)
大腸菌群数	日間平均 3000 個/l 以下	月 1 回	36 回 (毎年度 12 回)
浄化槽法第 11 条検査	指定検査機関による	年 1 回	3 回 (毎年度 1 回)
n-ヘキサン抽出物質 (動植物油類)	20mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
フェノール類含有量	5mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
銅含有量 Cu	3mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
亜鉛含有量 Zn	5mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
溶解性鉄含有量 Fe	10mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
溶解性マンガン含有量 Mn	10mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
クロム含有量 Cr	2mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
フッ素含有量 F	15mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
鉛及びその化合物 Pb	0.1mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
ジクロメタン	0.2mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)
ベンゼン	0.1mg/l 以下	年 1 回 (10 月頃)	3 回 (毎年度 1 回)

註: COD、T-P、T-N の測定については 10 時 13 時 15 時の 3 回採水を行い等量混合した試料を計測する。

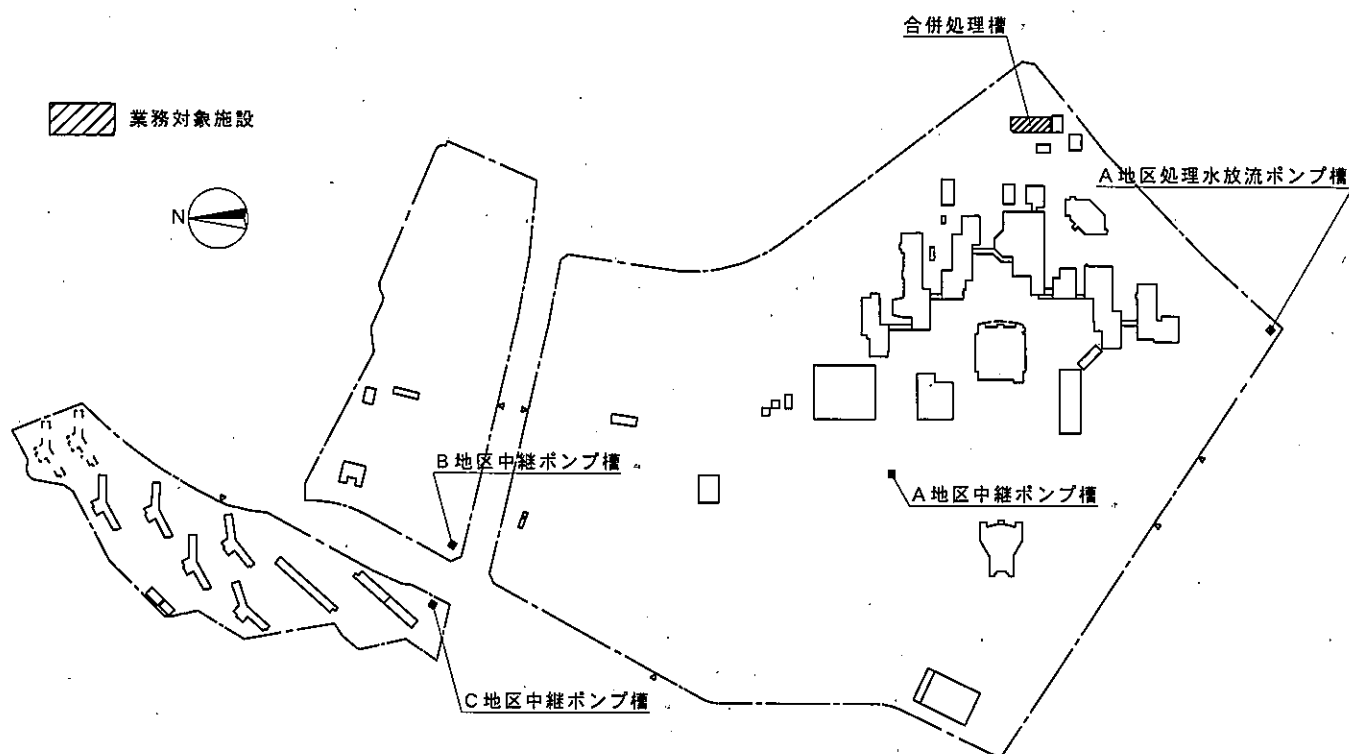
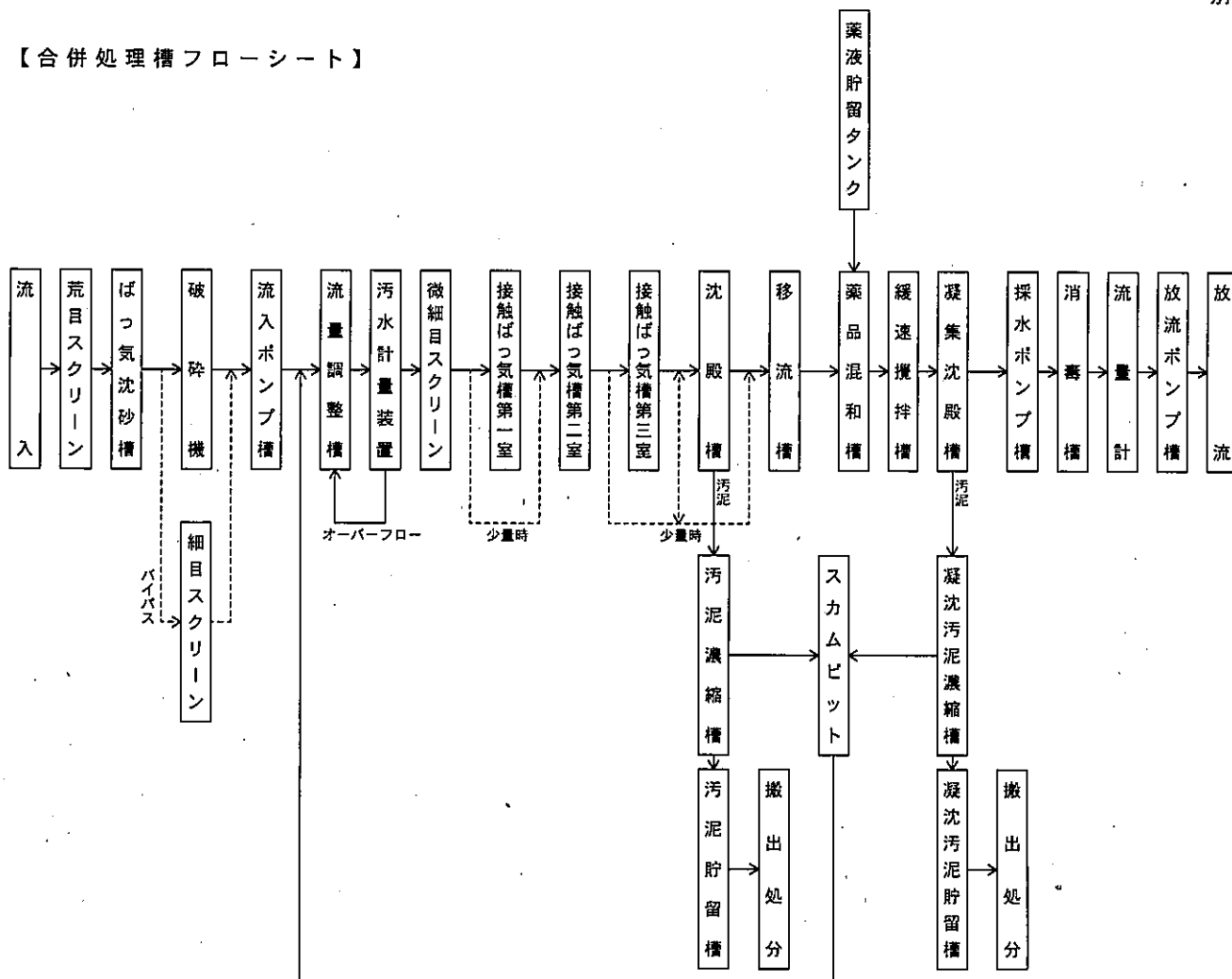
【浄化槽設備】

・業務対象設備の概要

浄化槽番号	1
設置場所	高島団地
設置年月	昭和 59 年 3 月 (令和 3 年 3 月改修)
建築用途	大学
処理方式 付加装置	合併 接触ばっ気方式 凝集沈殿方式
処理対象人員	1,434 人
計画流入汚水量	382 m ³ /日
実使用人員	----人
実流入汚水量	----m ³ /日
処理目標水質	----mg/l
除去率	90%
種類 製造者	現場打ち 新構造基準 西原ネオ (株)

設置場所	A 地区	A 地区	B 地区	C 地区
名称	汚水中継ポンプ槽	処理水放流ポンプ槽	汚水中継ポンプ槽	汚水中継ポンプ槽
設置年月	昭和 59 年 3 月 (令和 2 年 8 月 ポンプ取替)	昭和 59 年 3 月 (平成 30 年 3 月 ポンプ取替)	昭和 59 年 3 月 (令和 2 年 8 月 ポンプ取替)	昭和 59 年 3 月 (平成 31 年 8 月 ポンプ取替 令和 5 年 7 月 NO. 2 ポンプ取替)
付加装置	水中ポンプ×2 ・脱着装置付 ・運転制御盤	水中ポンプ×2 ・脱着装置付 ・運転制御盤	水中ポンプ×2 ・脱着装置付 ・運転制御盤	水中ポンプ×2 ・脱着装置付 ・運転制御盤
種類	現場打ち	現場打ち	現場打ち	現場打ち

【合併処理槽フローシート】



【鳴門教育大学配置図 S=1/6,000】